



地藏菩薩立像

金剛寺の秘仏本尊地藏菩薩像。等身大の一木造りで、重厚な姿と柔和な表情に平安時代中期の特色がみられる。足下の金色の雲龍は珍しいが、室町～江戸時代のものといわれる。地元では「投げ地藏」の名で信仰をあつめる。川上村指定文化財。



金剛寺 本堂

延元元年(1336)、後醍醐天皇 吉野山行幸の時、当寺に帰依し、金剛寺の寺名を賜ったとの伝えもある。

金剛寺の投げ地藏



大和上市から、国道169号線
を南へ走り、吉野の山を奥へ奥へと
分け入る。
どこまでも続く杉の美林と、迫り
来る緑の山々。時に天を刺すひととき
わ険しい山に驚き、また眼下を流れ
る吉野川の巨岩奇石やエメラルド
色に澄んだ流れに感動し、車は吉野
郡川上村柏木へ。
吉野川の対岸の神之谷、緑深い山
の中腹に、金剛寺がある。
寺伝では、白鳳時代、修験道の開
祖、役行者の草創という。今の本堂
は江戸時代の再建。この金剛寺のご
本尊が木造地藏菩薩立像。今回は、
このお地藏さまにまつわるお話。



金剛寺のケヤキ

境内に上がる石段の脇に横わっている推定樹齢800年、幹周り6.5m、樹高約30mの大木。高台にあるため、永年の風雪に耐えきれず、破損が激しく、内部に空洞ができています。初夏になると若葉が芽吹き、扇状に広げた枝を繁らせ、新葉と同時に淡い黄緑色の小さな花を咲かせる。

昔、役行者が、吉野の金峯山に籠り、濁世の衆生を救う尊像を造りた
いと諸仏に祈願した。満願のその日、
お地藏さまの尊像が出現された。だ
が、役行者は、こんな柔和で優しいお
顔やお姿では、世の人々は救えない
と、その尊像を、遙か向こうの谷へ投
げてしまった。
ところが、のちに、役行者は暗夜に
光明の輝くのを見、神之谷へ来てみ
た。するとそこには何と、谷に投げた
お地藏さまが、大岩の上に立ってお
られるではないか。
役行者は喜び、そのお地藏さまの
お姿を石楠花の大木で丹精込めて
刻んだ。そして本堂を建て安置し
た。この像は「投げ地藏」とよばれ、
今も、金剛寺本堂の内陣、厨子の中
に秘仏として安置されている(8月

物語の場所を訪れよう



「金剛寺」(川上村神之谷)へは…
国道169号大平橋(奈良交通 北和口バス停手前)を渡り、右へ。
道なりに1kmほど登る(道が狭いので注意)。神之谷公民館前に駐
車場あり(5台程度)。
川上村総務課 ☎0746-52-0111

23、24日に開屏。

ところで、本堂へ上がる石段の左
手に、驚くばかりの巨木がある。盛
り上がった何本もの大きな根は苔に
覆われ、周囲六メートルを超す太い
幹にも空洞が目立つ。木はケヤキ。
推定樹齢八〇〇年。(奈良県の巨
樹で検索してね)
老樹とはいえ、今も健在だ。
枝は八方に延び、緑の若々しい葉
は天を覆うように繁っている。その
みずみずしさ、力強さ、生命力はやっ
ぱり凄い。
秋、葉は黄色く黄葉する。この巨
樹の、見事な黄葉を想像してみる。
役行者が谷あいに見た地藏菩薩の
光明も、このケヤキの巨樹の黄葉の
ように、金色に輝いていたのだろうか。